

【学校教育目標】

十河に誇りをもち 自らを磨き 高め合い たくましく生きる子どもの育成

【本校の課題】

- 男女とも、握力や20mシャトルラン、反復横とび、ソフトボール投げの値が低く、どちらも全国・県平均を下回っており、筋力や全身持久力、俊敏性、投力に課題がある。
- 自ら進んで体を動かす子どもが固定されつつあり、運動に親しめていない子どもとの二極化がみられる。

【現状】

本校は、児童数に対して運動場が狭く、児童が十分に活動しにくい実態がある。そのため、休み時間に教室で過ごす児童が多く、運動量の差が大きい。また、実技調査や児童の様子から筋力、全身持久力、俊敏性に課題があることが分かった。そこで、体育授業の工夫や学校全体での取り組みを計画して実施していきたい。

【取り組み】

体育授業の充実

「体育の授業が楽しい」と答える子どもや運動が苦手な子どもの思いを大切に授業づくりや、授業の始めに目標を提示し、友だちと学び合いながら、授業の終わりに振り返る活動を取り入れていく。スモールステップで成功体験を多くし、体を動かすことの楽しさを味わえるようにする。

また、準備や片付けを効率的に行い、運動量を十分に確保して、しっかりと汗をかけるような授業を目指す。

年間を通してなわとびを活用

準備運動として年間を通して、短なわを活用する。また、業間時にペア学年ごとに曜日を分けて「ペアなわとび」（短・長なわ）を実施する。技能や記録の向上を目指し、ペア学年と一緒に運動することで、全ての子どもが運動に親しめるようにする。長なわの記録の向上が顕著なペア学年は朝会で表彰し、活動への意欲化を図る。

運動ができる時間・空間を確保

毎月15日の「十河の日」は、昼休みの時間を延長し、遊ぶ時間を十分に取っている。

また、体育館を各学年に輪番で開放し、遊ぶ場所を均等に確保している。月末の週を「体力アップウィーク」として、昼休みの時間に体育委員会の子どもと考えた運動（本校の課題である動きを高められるようなもの）を各学年に紹介し、取り組んでもらう。

固定施設活用の運動

運動場の北側にある遊具を授業の準備運動で活用したり、休み時間に子どもたちが遊具で遊んだりして、体力づくりに取り組んでいる。また、竹馬や一輪車も設置しており、日常的な遊びの1つとして、すぐに使えるように環境を整えている。



【目標】

- 男女ともに平均記録を前年度よりも上げ、県・全国平均を上回る種目を増やす。
- 運動場や体育館で遊ぶ児童の数を増やしていき、自ら進んで体を動かす子どもを育てる。